

あひるのチャレンジ

令和7年12月11日



下記は、12月1日朝日新聞の記事です。まずは、ご一読ください。（字が小さくてすみません…。）

専月 日 発行 冊数

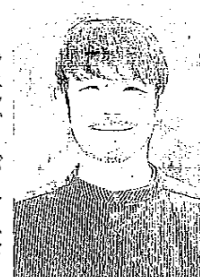
2025年(令和7年)12月1日(月)

第3種郵便物認可

「男のスカート変だよね」子に言われたら

「ママ、男がスカートはいちやだめだよね」。先日、4歳の娘の言葉にきくろとしました。幼い子どもに野生え始めたジェンダーバイアスに、大人はどう向き合えばいいのでしょうか。ジェンダーの問題に詳しい保育士の天野諭さんに聞きました。

保育士 天野諭さんに聞く



あまの・さとし 立命館大学大学院博士後期課程在学中。専門は保育・乳幼児教育学、子ども社会学。著書に「保育はジェンダーを語らない」（かもがわ出版）。

——ジェンダーバイアスを植え付けないよう注意してきたつもりでした。

「女の子はピンク」「男の子は青」「みたいな話」ってその子にとつては悪気のない、素直な感想なんだと思います。大人は自分の知識とひもつけて「偏見」って言っちゃいますけどね。

「男らしさ」「女らしさ」の押しつけによって苦しむ人がいるのは事実です。でも、幼い子どもが口にしたことに對しては、僕はちょっと違うと思っています。

——どういうことでしょうか。

大人たちはジェンダーについてどこまで考えて、どこまで話を語って子どもにおおるしているのだから、と思います。

例えば、ジェンダーに関する絵本がありますね。LGB T Q+の存在や多様な家族の形があることを伝えるもの

です。読み聞かせることで、大人たちは誰かが用意した「正しさ」を子どもに伝えることができてしまう。

そこに僕は「大人って、ズルいな」と思うんです。

古い規範を引きずる社会に向き合う責任は大人たちにある。大人こそがジェンダーについて語り合う必要がある。でも、そこをすっ飛ばして、上澄みの「正しさ」だけを子どもに渡しているように見えます。

——大人が決めた「正解」を押しつけている。

そうですね。そしてそれが、子どもの感じ方や考え方の違いを受け止めない態度につながっている。

子どもの「変だ」という感覚に「間違ってる」と言ったりして仕方がないんです。その子は今、そう思ったんですから。

大切なのはその発言を否定せず、議論のきっかけにする。こと。「あなたはそう考える

芽生えるジェンダーバイアス「正しさ」押しつけず

対話しながら問い直し「みんな違う」を当たり前

のね」とまず話を聞いてみる。「なんでそう思ったの？」「スカートは女の子のものって決まってるのかな」と一緒に考える。

子どもと対話しながら、ともに「変だよね」を解きほぐし、問い直していくプロセスが必要です。

——その結果「男がスカートは変」という結論になってしまったら？

悩ましいですよ。でも、最終的に行き着くのは、意見や自己表現のあり方が自分と違うからといって相手をいじめたいなんてことはないと、いうこと。人権の問題として、やっとなこと、悪いことを、子どもが納得できるプロセスを踏んで丁寧に共有する、ということだと思っています。

——違いを認め合う、というところに行き着く。

もう少し言えば「みんな違っていいけど、別にどうでもいい」くらいにならないといけません。

ジェンダー的「正しさ」を追求しようとする「男らしさ」「女らしさ」を否定し、排除する方向に意識が向



天野さんの近著「保育はジェンダーを語らない」（かもがわ出版）

（聞き手・伊藤舞虹）

私は、この記事を読んで、反省すべきことがありました。ただ、改めて大切だなと思うこともありました。

○大切なのは、その発言を否定せず、議論のきっかけにすること。

○子どもと対話しながら、ともに「変だよな」を解きほぐし、問い直していくプロセスが必要。

○意見や自己表現のあり方が自分と違うからといって相手をいじめていいなんてことはない。

○「みんな違って、別にどうでもいい」ぐらいにならないといけない気がします。

○人と違うことが当たり前になる環境を作っていけば、誰がどんな格好をしたってどうでもよくなる。

「ちがいを認め合える」社会に

あひるのチャレンジの「チ」である「ちがいを認める」。私たち大人が環境を作るとともに、子どもと対話しながら理解させていくことが必要だと感じています。

また、「まだ『みんな違って、みんないい』という気持ちを100%もてていなくても、いじめはいけない」ということを私たち大人が伝えていかななくてはなりません。

ちがいを認め合い、誰もが過ごしやすい学校や家庭、地域を作っていくためにも、学校と家庭、地域が一つのチームになっていくことが大切です。

今後も学校の取り組みにご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いします。